

## 国際協力講演会 フェアトレード～地球にフェアなお買い物～

2月20日(日)、フェアトレードをテーマに講演会を行いました。講師お二人のお話はフェアトレードについて初めて聞く人にもわかりやすく、よく理解できたと好評でした。

また、14人の高校生によるフェアトレード製品のミニ・ファッションショーは、元気な高校生のあふれる笑顔で会場から大喝采を受けました。

当日、会場においでいただけなかった方のために、講演の一部をご紹介します。

### ■基調講演「フェアトレードと私たち」

東京経済大学 渡辺 龍也教授

フェアトレードとは、途上国の零細な生産者や労働者が人間らしい生活を送れるよう公正な条件で取引することで、チャリティではなく、ビジネスを通じた国際協力です。

従来の貿易は、生産者から仲買人、その他消費者に渡るまでにいくつもの業者が関わり、それぞれで利鞘をとります。小売業者からは安い値を求められるため、結果的に生産者に渡る賃金はわずかになります。一方、フェアトレードは生産者たちで生産者組合を作り、仲買人などをはさまず、フェアトレード団体が間に入ることで、なるべく生産者の手取りを多くしようとすしくみです。

現代の私たちの生活では、生産者の顔が見えず、安ければいいという傾向にあります。生産者への感謝の気持ちもなく、安いものほど粗末にしてしまいます。「安ければいい」ではなく、「どうして安いんだろう」と考えてみてほしいのです。安くても良いものを求める消費力は必要ですが、その裏では生産者にしわ寄せが来ています。作り手、生産者へ「おかげさま」の感謝の気持ちを忘れてはいけないのではないのでしょうか。

私たち消費者一人一人が意識を変え、「ただ安いものではなく、フェアなものが欲しい」と企業に訴えていくことも必要です。高くてもよいものは大切に使い、大切に味わうだろうから、フェアトレード商品を買ってみてください。



### ■フェアトレードの現場から「お買い物でできる楽しい国際貢献」

NGOグローバル・ヴィレッジ 広報担当 川村 菜海さん

現在、日本で着られている衣類の90%が中国製といわれています。安さを求める消費者、そして企業の要求が生産者/労働者へのしわ寄せとなっています。

私たちの服の背後には、厳しい労働者の現実があります。アジアの最貧国と言われるバングラデシュの首都ダッカで働く20歳の女性の例では、月にたった1日の休日で、労働時間は1日12時間、繁忙期は深夜1時になることも。それだけ働いてお給料は1か月2,300タカ(日本円で約3,200円)。ダッカでのひと月の生活費に必要な約6,000タカには遠く及びません。

「フェアトレード」は、対話と透明性、そして互いの尊敬に基づき、対等な関係、貿易のパートナーシップを目指しています。ピープル・ツリーはフェアトレードのパイオニアと言われていて、ファッションを取り入れています。ファッションでは、もともと持っている技術を生かすことができ、縫製、刺繍などたくさんの人が携わるので多くの雇用が生まれます。また、その地域で採れる自然素材を利用することもできます。

現在、デザイナーとコラボレートした商品でフェアトレードを広めるための取り組みを行っています。昨年からは映画「ハリー・ポッター」シリーズで有名なイギリス人の女優エマ・ワトソンがボランティアとして若者向けの商品開発に携わっています。

「ピープル・ツリーの製品は、シンプルで着心地がいい。薬品を使わないのがいい。この製品を選ぶことによって、誰かの人生をよくすることができるんです。」エマ・ワトソン



### 高校生がピープル・ツリーのフェアトレードファッションを着こなして元気いっぱい歩きました。会場内が一気に華やかに！

